

- 不安定な用水供給や未整備の農地などによる非効率な営農条件を解消するため、基盤整備を実施。
- 質・量ともに安定した用水供給やほ場整備により、いちごの施設栽培が拡大するとともに、品種更新にも寄与。
- 所得が向上するとともに、輸出や6次産業化も展開されるなど、全国有数のいちご産地へ発展。

地区の特徴

平地地域

野菜

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

未整備な生産基盤

- アオ取水^(※)による水量や塩分濃度が不安定な用水供給
※アオ取水についてはP27のTipを参照
- 河川が潮位の影響を受けることによる排水不良、湛水被害
- 水路（クリーク）が不規則に分布し、農地は未整備



広域に分布するクリーク、不整形な農地

取組内容

用水の安定供給、湛水被害の防止

国営かんがい排水事業(S51～)
 公団営筑後大堰事業(S49～59)
 公団営筑後川下流用水事業(S54～H9)



福岡、佐賀の両県に
 用水供給を行う
 筑後大堰

区画整理、暗渠排水等の整備

県営ほ場整備事業(S50～H25)
 県営農村振興総合整備事業(H5～13)
 県営中山間地域総合整備事業(H6～) 等

新品種への更新

輸出の展開

輸出倍増サポート事業 (H23～)

新規就農者支援

青年就農給付金 (H27～)

取組後

全国有数のいちご産地へ発展

J A ぶくおか八女いちご部会

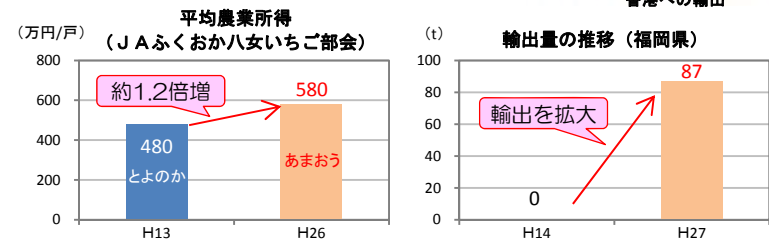
【営農規模】 113ha (平均：約23a/戸)
 【経営体数】 496戸
 【販売額】 58億7,000万円 (平均：1,180万円/戸)
 【品種】 あまおう ※平成26年度

【所得の増加や輸出量の拡大】

- 安定的な用水供給、ほ場整備、品種改良等により、所得が向上するとともに、輸出量が拡大
- 県全体では、生産量が全国2位となるなど、いちごの一大産地へと発展



香港への輸出



【6次産業化の展開】

- 規格外品を活用した冷凍加工品、アイス、ジャムなどの開発・販売を行い6次産業化を推進



1年中味わえる
 冷凍加工品 (1袋200g)

【若手後継者の確保】

- 農家研修を受け入れ、平成27年度以降、研修者のうち4名がいちご農家として独立

◆ いちごの生産拡大にも寄与

かんがい用水が確保され、ほ場整備が行われた農地は、いちごの施設栽培等に利用されるなど、基盤整備事業は良好な生産条件の確保にも寄与しています。

☆ 産地崩壊のピンチを乗り越えて・・・

既存品種の価格下落に危機感を抱いたJAふくおか八女いちご部会長が、県などと協力した度重なる実証試験の実施により、炭疽病を克服するなど、わずか4年で品種更新を実現しました。

きっかけ
アオ取水による不安定な用水供給
クレークが不規則に分布する未整備な農地

Step1 (S49~)

基盤整備の実施 (かんがい排水)

- 安定的な用水供給のため、頭首工を整備し河川水へ水源を転換するとともに用水路等を整備
- 湛水被害の解消のため、排水路、排水機場等を整備

基盤整備の実施 (ほ場整備等)

- 区画整理を実施し、いちごハウス団地の規模拡大に寄与
- 暗渠排水を整備し、農地を汎用化

Step2 (H13~)

新品種への更新

- 既存品種をしのぐ特性を持つあまおうへ品種を更新するとともに、栽培品種を全て統一



いちごが次々と運ばれるパッケージセンター



就農支援センターで研修を実施



低コストで鮮度保持(コールドチェーン)が可能な船便コンテナ

「赤い」「丸い」「大きい」「美味しい」の頭文字をとった「あまおう」は、知的財産権を保護する取組により、福岡県でのみ生産が許可されています。

◆ 海外への販路拡大

県の輸出促進協議会と連携し、東アジアやアメリカなどへあまおうの輸出を積極的に展開するとともに、中国、韓国などにおいて「あまおう(甘王)」の商標登録を行い、産地の保護に取り組みました。

いちご部会は毎年独自に100万円の消費宣伝活動費を予算化し、R-カルテレビでのPRやラジオ局と連携した収穫体験を開催するなど、ファン獲得に取り組みました。

Step3 (H11~)

出荷体制の強化

- パッケージセンターを整備し農家の出荷作業を省力化
- 果実の大きさやパック詰め個数の組み合わせを多数開発し、販売先の多様なニーズへ対応



あまおう特有の大きさに対応した1段詰めパック

将来に向けて

- ☑ 「莓一笑(いちごいちえ)」をスローガンに、栽培技術の更なる向上を推進
- ☑ 船便による輸送の実用化に向けた現地到着後の鮮度保持対策の確立
- ☑ 担い手を確保するため、新規就農支援などの人材育成を推進

今後の展望

Step5 (H27~)

新規就農者の支援

- JA就農支援センターで農家研修を実施
- 1年間の研修期間終了後も部会員が中心となり、指導役として経営が安定するまで支援を実施

Step4 (H15~)

輸出の展開

- 経営の更なる安定化、産地の知名度アップなどを目指しあまおうの輸出を展開
- 航空便に比べコストが低い船便による輸送試験を実施

輸出倍増サポート事業を活用

地域資源保全
美しい農村
再エネ等
水利施設整備
防災・減災力